読み聞かせ講座

読み聞かせ　基本の㋖！

講師：五十嵐　静江

（元公共図書館司書）

【 はじめに 】

絵本はもともと読んでもらうものです。子供たちは読んでもらうことにより、言葉と絵を楽しみ、絵本の世界に入っていくことができます。図書館や児童館、学校等での読み聞かせは、みんなで一緒に聞く楽しさや、よい絵本と出会いをつくります。読み聞かせは、読んであげるということではなく、子供たちと絵本を読み合っていくことです。

1　絵本の基礎知識

（1）絵本とは？

絵本は絵と言葉が融合､相乗的に影響し合って、物語や情報を伝える本です。表紙、見返し、背表紙、絵、活字、型、紙質、色彩などのトータルデザインで､ページをめくることによって展開していきます。

（2）なぜ絵本の読み聞かせが必要なのか

ア　子供たちをめぐる生活環境の変化

生活はスピード化、自然体験・コミュニケーションは減少し､遊びも変化しています。テレビ・ビデオの他、スマホなどの影響も大きくなっています。

イ　絵本の読み聞かせが育むもの

絵本は、子供の想像力、知的好奇心を刺激します。また、読み聞かせを通して子供と楽しいひと時を過ごすことができます。

〇赤ちゃんと絵本

・大切な言葉掛け、絵本で楽しいひと時を。

〇幼児と絵本

・絵本を最も楽しめ、言葉が爆発的に増える時期。

・心の中で想像し、内容をくみ取ることができるようになってくる。

〇小学生と絵本

・家庭での読み聞かせが減少する。

・小学校での読み聞かせは、“子供と本との豊かな出会いづくりの場”。

・自分で読む読書への移行。

（3）絵本を見る目を鍛えよう

：意識して絵本を見る

ア　テーマ・ストーリー

・子供の興味や年齢にふさわしいテーマ。

・子供が主人公と同化できる要素を持つ。

イ　絵

・生き生きとした魅力があり、表現や色彩感覚が優れているもの。

・絵がストーリーを語っているもの。

・内容を的確に表現しているもの。

ウ　文

・選ばれた、無駄のない言葉を使っている。

・生き生きとした、美しい響きをもつ言葉。

・言葉の使い方、文章表現が子供の理解力にあっているもの。

エ　形態

・扱いやすく、丈夫なもの。

2　読み聞かせの実践

（1）絵本を選ぶ

ア　読み聞かせに適した絵本

絵柄がはっきりとし、遠目が利くものを選びましょう。近くで見るより、少し離れてみるとよい絵本もあります。

１枚の絵に対して、文の量が適当かどうかもポイントです。

イ　読み聞かせに適した絵本を選ぶ

日頃から、色々な絵本に触れ、読みたい本をためておきましょう。季節や行事にあった絵本を選ぶと効果的です。

実際に声を出して読んでください。他の人の読み聞かせを聞くのも大事です。

（2）　絵本を読むには

ア　読む前の準備

①全体の流れや雰囲気、構成をつかむ。

②必ず練習をする

・スムーズに読めるまで練習する。
・聞き手に見せるように絵本を持ち、絵本が傾いていないか、鏡で確認してみる。
・新しい絵本は、開きにくく持ちにくいので、必ず開き癖をつけておく。

イ　読む時の注意

①読み手の位置

・後は壁など、子供の目を引くものが無いところ。出入口は、聞き手の後方にする。
・できるだけ近くに集め、扇形に座ると、見やすい。
・聞き手の位置を見て、読み手は位置を調整する。
・聞き手が椅子に座っている場合、読み手は立ち、床に座っている場合は椅子に座って読むと見やすい。

②絵本の持ち方

・前の子の頭が邪魔にならず、首が疲れない高さにする。
・絵本がぐらつかないよう、しっかり持つ。
・本の中央下を持ち、指が邪魔をしないよう注意する。

③めくり方

・スムーズに丁寧にめくる。
・話の展開に合わせて、めくり方に工夫が必要なことがある。
・絵をじっくり見せる。

④読み方

・はっきり、聞きやすい声で、ゆっくりと。
・間を大切に。ページをめくったら、一呼吸おいてから読む。
・おおげさな声色や身振りを入れない。

⑤その他

・これからお話が始まります、という気持ちを込め、表紙をきちんと見せ、題名、作者、画家名はっきり告げる。
・何より絵本が主役。本より読み手が目立たないようにする。
・読み終えた後はゆっくり見返しや裏表紙を閉じ、裏表紙も見せます。一枚の絵になっている時は、広げて見せる。

【 終わりに 】

「あいのみ文庫」の皆さんを中心に、わらべうた「あんたがたどこさ」を参加者全員で。

短い時間でしたが、楽しいひと時となりました。